

樓角聲殘鎖禁城　燈花半落夜寒生　啼鴉井上驚風散　殘雪窗前助月明　清世莫嗟人寂寞　中年漸怯歲崢嶸
酒杯詩卷吾家物　客裏相親倍有情

【読み】

樓角 聲殘(ざん)して禁城を鎖(とぎ)す　燈花 半ば落ちて夜寒(やかん)生ず　啼鴉(ていあ)井上(せいじょう)風に驚いて散じ
殘雪窗前 月を助けて明かなり　清世(せいせい)人の寂寞(せきばく)を嗟(なげ)く莫(なか)れ　中年にして漸(ようや)く歳の
崢嶸(そうこう)を怯(おそ)る　酒杯詩卷 吾が家の物　客裏相親(した)んで倍(ますます)情有

【意味】

城楼の上で吹く角笛の音がしだいに小さくなっていき、宮城の門は閉ざされた。夜もふけて、灯心の燃えかすも半ば落ちて、寒気がにわか増してきた。井戸の上で鳴き声をあげる鴉が風に驚いて飛び散じ、窓辺の消えずに残った雪は月の光を一層明るくしている。平和な御代にあつては我が身の上の寂しさを嘆くことはないが、中年になって、歳月がせわしく暮れ行くのに恐れるようになった。酒杯と詩の巻物は我が家の愛用品であり、旅先でこれらと親しむと、一層温かい情を覚える。

*樓角…城楼の上で吹く角笛　*禁城…天子のいる宮城、皇居　*燈花…灯心の先にできる燃えかすのかたまり。丁字頭(ちょうじがしら)。
*崢嶸…歳月がせわしく過ぎ行くこと。人生のきびしさ　*客裏…旅にある間。他郷にいる間。旅先。

【出典】客舍夜坐(高啓・明)